

アトリエ 琉游舎 だより 43号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2019年1月2日発行



- ★今年もみんなで作る琉游舎をよろしくお願ひいたします
- ★引き続き読書会 詩話会 映画会 写経会をやっていきます
- ★皆さんのこんなことしたい あんなことやりたいがあったら
お知らせください 是非一緒にやっていきましょう

- ・写経会は今年も毎月第一日曜日に行います。初めての方も写経に必要な道具一式ご用意しています。手ぶらでお越し下さい。手本をなぞる方法、経文を隣に置いて白紙で写経する方法など、皆さんの好みの方法で写経して下さい。文字に一心に向かい合っていると1時間という時があっという間に過ぎてしまいます。
- ・読書会は回を重ねて法華経の半分を読むに至りました。ふりがな付きの経文とその現代語訳を用意しています。途中から参加しても分かるような説明を心がけています。大きな声で、法華経を読むことで頭と口をなめらかにし、分かったことは分かったままに、分からないことは分からないままに、細かいことにはこだわらず「理解するより面白い」をモットーにしています。
- ・詩話会は毎週第2土曜日に、戸井みちおがセレクトした詩人の5作品ほどを読んで解説していきます。現代詩は難しいもの、自分には縁遠いと思われる方も一度覗いてみてください。現代詩って面白いし自分の生活感覚の中で「これってあるね」という発見があることでしょ。
- ・映画会は60-70年前の名画を上演しています。現在は世界の名作文学を映画化したものと、フランス映画の名作を交互に上映しています。面白いです。懐かしいです。昔のスターはかっこよく美人です。

写経会
1月6日(日)
13時半から

読書会 1月8日(火) 妙法蓮華経如来寿量品第十六
1月22日(火) を2回に分けて声を出して読
13時半から み説明します

詩話会
1月12日(土)
13時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

1/10 木	13時半	恐るべき子供たち (106分)	ジャン・ピエールメルビル監督、ジャン・コクトー原作。兄弟2人だけの閉ざされた世界から、大人にならざる得なくなったときに起こった悲劇。思春期の心の脆さを描く。
1/17 木	13時半	落ちた偶像 (91分)	グレアム・グリーン原作。キャロルリード監督。少年の視点で描いたサスペンス映画の傑作。
1/24 木	13時半	オリバー・ツイスト (116分)	チャールズ・ディケンズ原作。孤児のオリバーは奉公先から逃げ出して窃盗団員になるが悪に染まらなかった。やがて出生の秘密が明らかになり運命の渦に巻き込まれていく。
1/31 木	13時半	ブローニュの盛りの貴婦人たち (85分)	ロベール・ブレッソン監督ポール・ベルナル主演。恋人・ジャンを試すために別れを告げたエレヌだが、期待と裏腹に別れを承諾されてしまう。裏切られたと感じたエレヌは復讐を画策する。
2/7 木	13時半	ジキル博士とハイド氏 (113分)	精神分離の研究を進めるジキルは開発した薬を飲み分身のハイドを生み出す。 ロバート・ステューブソン原作、イングリット・バーグマン、スペンサー・トレイシー主演

新年明けましておめでとうございます。皆さんおせち料理を頂いているでしょうか。かつて五節句（桃の節句や端午の節句）をお祝いし、神様に供え食べたものを「御節供（おせちく）」と呼んでいました。これが一年の節日で一番大切なお正月料理をさすようになって広く庶民に行き渡り「おせち料理」と呼ばれるようになったとのこと。おせちはまずは土地の神様や祖先を供養するお供えだったのです。現代は既製品の方が手間も材料費もかからずおいしくできているので、お重を買ってくるか詰める人がほとんどでしょう。食べることが目的であればそれでも良いのですが「御節供」が目的であれば、できる限り材料は自分で作り、土地のものを使い、自分で調理することが、私たちの一年を支えてくれた大地と生き物と人々に感謝をすることであり、また次の一年を楽しく豊かに過ごすことができるよう、願い誓い行うことと私は信じています。その様なわけで今年も、鏡餅におせちやキムチ、御守護袋を作りコリーナの花木で琉游舎を荘厳し、新しい一年の初日の出を迎えることができました。ありがとうございます。

「正月の一日は日のはじめ月の始めとしのはじめ春の始め これをもてなす人は月の西より東をさしてみつがごとく 日の東より西へわたりてあきらかなるがごとく とくもまさり人にもあいせられ候なり」

注1 日蓮聖人が正月に女性信者の方から「蒸し餅百枚、果物一籠」を供養されたお礼に書いた手紙の言葉です。要約すると「元日は一切の始めの日です。この日を大切にすることは、月が次第に満ち、日が普く照らしていくように、内には人徳を積み、外には人から敬愛をされるのです」となります。正月は一年のスタートの日、それは全ての始まりの日でもあるのです。そのかけがえのない日を大切にすることは、この一年も自分ばかりでなく周りの全ての存在と共に豊かで実りある楽しい日々を享受できるという言葉です。あらためて自分自身の居ずまいを正す一年で一番大きな節目が正月。日蓮聖人の生活されていた七百年ほど前から変わらない正月の意味はここにあるのだと思います。

正月を寿ぐこの言葉に続いて日蓮聖人は「そもそも地獄と仏とはいづれの所に候ふぞとたづね候へば」と、いきなり地獄と仏はどこに存在しているのでしょうかと問いかけています。この疑問も何百年も変わらない定番の疑問ですね。対する聖人の答えは明快です。様々な経を仔細に調べてみると「我等が五尺の身の内に候ふとみへて候ふ」そして「我等凡夫はまつげの近きと虚空のとをきとは見候ふ事はなし 我等が心の内に仏はをはしましけるを知り候はざりけるぞ」と明快に断じています。「地獄も仏も私たちの身の内（己心）に存在しているのであり、それが分からないのは、あまりに近すぎる睫毛とあまりにも遠すぎる宇宙の果てを私たちが見ることが出来ないようなものなのです」と語られています。あまりにもシンプルで拍子抜けするような答えです。もう少し難しい理屈をこねて煙に巻いて貰った方が有り難い言葉に聞こえるかもしれませんね。しかしお釈迦様や日蓮聖人が見られたありのままの世界（実相・真如）は自分の目の前にあるあたり前のとても明快でシンプルな世界なのです。ところが私たちは睫毛と虚空の間を右往左往し、地獄に落ちるぞと脅迫されては紙切れを買い、成仏できますよとすかさずは木屑や石ころを有難がり、あるはずもないものにすがっているのが現実の姿なのです。

自分の睫毛を見るには鏡を見ることです。虚空を見るには目を閉じることです。このように観ると、自分が自分自身を観ていることと、その自分は目を閉じれば何もない真っ暗闇の世界にいるという事が分かります。そしてひたすら観ることに専念し続けると、次第に自分自身というものが果てのない宇宙の光り（法）の中に包まれているという安心感に満たされていくでしょう。これを難しい仏教用語でいうと「観心（かんじん）」といいます。「観心」は人それぞれ自分に合ったやり方を見出せばよいのです。例えば真冬の夜空の星をひたすら眺めるとき、あるいは眠る前のひと時まぶたの裏に自分の姿を映し出してみるとき、そこに集中し一心に観つづけると何かにずっと引き込まれる感覚がわき起こって来るでしょう。そしてやがては何もかもなくなる空っぽの状態がやって来るのではないのでしょうか。空の心になると言ってもいいでしょう。それがありのままに観るといことなのです。鎌倉時代の祖師、道元や親鸞や日蓮は只管打座し念仏や題目を唱えることで、つまり「観心」によって自分の内なる地獄を打ち消し仏を観ようとしてきました。私たちはどのような方法で仏さまを観ることができるか、方法は自由です。ただわたしにとっては、自分の内なる地獄を打ち消し仏さまに出会いたいと願い誓いありのままに行うこと、それ自体が仏さまに出会うことだと確信しています。

わたしの睫毛と虚空の間を右往左往する日常は、昨日も今日も明日も続いていきます。今年の正月で60回目の年の節目を迎えました。一日の節目は20,000回以上、細かい節目は右往左往のその時ですから数え切れません。一生の節目はまだまだ先かもしれませんし、明日かもしれません。一日、一年、一生の節目はまた今この瞬間そのものでもありわたしは考えます。ですからこの一年も、考え、行動し、撥ね返され、また考え、行動していくその瞬間を節目節目と観て、傍目にはあたふたと 琉游舎：戸井 出琉・恭子 悪戦苦闘しているように見えても、心はいたって平穩 お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152 というような一年にしていきます。一年の計は元旦にあり。 矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850 有言実行、本年も宜しく願いいたします。（出琉） Mail:toi101izuru@outlook.jp